①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・6から9の合成，分解について理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・具体物の操作で，1つの数を2つに分けて考える構成的な見方を学習してきている。　　　　　　　　　　 　　● ● ● ○ ○

教材研究ノート№1-A-1

≪学習問題≫

10このおはじきをつかって，「おはじきいれ」ゲームをしよう。

・円の陣地に入ったおはじきの数と，入らずに

周りの陣地にあるおはじきの数を数える。

・それぞれの数がいくつか分かるように色をぬる。

10はいくつといくつになったかな。

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

○ ○○ ○ ○

②見通し: 数が多くなって，いくつといくつを数えるのが大変。

→円に入った数だけ数図ブロックを並べたり，数図に色をつけたりすれば周りの数も分かる。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:数図ブロックや数図の●の数を数えて，10のおはじきがいくつといくつに分かれるか調べよう。

③個人追究:1回ごとに数字と●で表して，10がいくつといくつになるのか整理してまとめる。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「並べた数図カードを見て発見したことをお話しましょう。」

→「階段みたいになっている。」

「入った数が1つ増えて，入らなかった数が1つ減る。」

「同じ数字が仲間になっている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「8といくつで10になるか，どこをみればわかるのかな？」

→「2こ。●が8このカードは○が2こだから。○が8このカードは●が2こになっている。」

「8は10より2つ足りないから，2こになる」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・●入った数と○入らなかった数を合わせると10になる。

・入った数と入らなかった数が同じペアになっている。

・入った数が1増えると入らなかった数が1減る。

⑥定着･活用問題

10づくりをしましょう。

　(1) ●● ● ●　　　□と□　　　(2）7と□

(3) 10は，□と2

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・前時までの合成・分解の経験をもとに「10はいくつといくつになるのか」という気持ちを生かして取り組ませたい。そこで，活動で円の中に「入った数」と「入らなかった数」を対等の関係とし，いろいろな分け方で10の構成が理解できるようにしたい。

・数図を使って10の構成を視覚的に示し，数字と数図（ブロック）の関係をとらえられるようにする。